

《ニュースリリース》

2019年9月26日（木）
リンナイ株式会社

各国・地域のエネルギーや環境事情に応じた「最適な給湯・暖房システム」の展開が 第2回エコプロアワード「奨励賞」を受賞

リンナイ株式会社（本社：愛知県名古屋市、社長：内藤 弘康）は、第2回エコプロアワード（主催：一般社団法人産業環境管理協会）において、「各国・地域のエネルギーや環境事情に応じた『最適な給湯・暖房システム』の展開」が評価され、「奨励賞」を受賞しました。（2019年9月11日に主催者から発表済）



エコプロアワードは、旧「エコプロダクト大賞」の理念や実績を継承し、エコプロ展と一体的に実施される表彰制度です。経済のグローバル化やパリ協定の発効、SDGsの制定など社会経済を取り巻く状況の変化を視野に入れ、環境配慮に優れた製品、サービス、技術、ソリューション、ビジネスモデルを表彰する制度で、第2回エコプロアワードには、合計50件の応募がありました。

このたび、当社グループが日本、アメリカ、中国それぞれの国で、エネルギーや環境事情に応じた最適な給湯・暖房システムの展開を行っていることが評価され、奨励賞を受賞しました。

受賞にあたっての審査員コメント

国内における民生部門のエネルギー使用量の6割は熱分野であり、省エネルギーの給湯機器を導入することは家庭における省エネ対策の効果として大きい。また日本での取り組み以外にもアメリカ・中国など各国の利用環境に合わせた商品展開や、アメリカの施工事業者の教育に取り組まれている点を評価する声もあった。海外においては給湯効率が著しく劣る製品も多いことから、普及に期待できる。

なお、エコプロ2019（主催：一般社団法人産業環境管理協会・日本経済新聞社、会期：12月5日～7日 会場：東京ビックサイト）にて、第2回エコプロアワードの表彰式と受賞者記念展示が行われます。

《本件についてのお問い合わせ先》

リンナイ株式会社 広報部：052-361-8211（代表）

（注）本資料に記載されている内容は発表日時点の情報です。ご覧になった時点で、内容が変更になっている可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

(ご参考) 各国で展開している給湯・暖房システム

■日本

パリ協定を受けての、日本の約束草案「2030年までに温室効果ガス排出量を26%削減」を達成するには、特に、家庭のエネルギー消費の50%以上を占める「給湯・暖房」の省エネ化が必須です。ECO ONE(エコワン)は、電気の力で効率よくお湯を沸かすヒートポンプと、そのお湯を貯めておくタンク、大量のお湯が必要な場合にガスの力で素早くサポートする高効率ガス給湯器(エコジョーズ)の3つのユニットで構成されています。「学習機能」を備えており、「必要な時に、必要なだけ」という発想のもと、過去の利用状況から予測してお湯を沸かします。効果指標の給湯一次エネルギー消費量は、業界最小の13.8GJ/年で、ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の普及に貢献しています。



■アメリカ

アメリカでは、お湯をタンクに貯めて使用する貯湯式(タンク式)給湯器が以前から主流となっており、エネルギー効率の面でも非効率であるばかりか、シャワーの途中で湯切れを起こしてしまうという利便性にも課題があります。貯湯式給湯器に比べて湯切れが無く省エネに繋がることから、瞬間式給湯器の普及を行っています。近年では主に、施工業者の皆様を対象としたトレーニング講習に力を入れており、全米各地へ展開し受講者数は、これまでに20万人にも及びます。



■中国

中国ではPM2.5による大気汚染が大きな社会問題になっています。PM2.5による大気汚染の発生原因は、自動車の排出ガスや工場からの排気、そして家庭で使われる石炭ボイラーによる排気であるといわれています。特に北京を含む華北地域の冬は暖房のために低品質の石炭が多く使用され、大気汚染が深刻になっています。そこで、大気汚染の発生を抑制するために政府主導で進められている、石炭からガスへの燃料転換政策を背景に、ガスボイラーの普及を行っています。石炭ボイラーに比べて燃焼効率も良く、中国の環境問題対策の一助となっています。



■第2回エコプロアワード審査結果発表サイト

http://www.jemai.or.jp/ris/2st_eco-pro_award_results.html